

ドクター・ホーン： 精神と記憶のエキスパート

今日は、心の治療、心と記憶の相互作用を専門とする医師にお話をお伺いします。彼の仕事が今日の社会でどれほど重要かを理解するため、いくつかの質問に答えていただきました。

文：シンディ・アリソン

—まずは自己紹介をお願いします。

TH:もちろん。私の名前はテオ・ホーン(Theo Hoorn)。現在46歳で、行動神経学と心理学の修士号を持ち、記憶回復の分野を専門としています。「The White Door」で働き始めたのは、かなり若い頃でした。アシスタントから始めましたが、何時間も勉強と自己啓発に力を注ぎ、その結果、現在の自分が存在します。

—読者のために「The White Door」についてもう少し詳しく教えてください。

TH:この施設は、特に精神および神経学的行動に影響を与える精神疾患の治療を行う民間のセンターです。施設自体は随分前に建てられました。過去の人生を振り返り、心を癒す場所だと言う人もいます。

—施設での活動内容を教えてください。

TH:看護師や精神科医のサポートを得て、私はあらゆる年齢の人々と仕事をしています。患者を理解した上で行う臨床心理学を利用し、病気に対抗するのではなく、病気に対処するための分析と最善の方法を見出します。多くの時間は、健康な患者とそうでない患者の両方で、神経画像法と脳マッピング技術を推進するために費やされています。その上、日々の仕事には観察や研究もたくさんあります。

—現在の仕事が科学の重要な進歩につながる可能性はありますか？

TH:あると思います。何年もの間、私たちは神経回路の電氣的活動を観察してきましたが、そのほとんどは基本的な刺激に対する反応でした。これらの発見は、現在では真新しいものではありません。私が今取り組んでいることは、いずれにせよ、それよりもはるかに重要で高度なものです。私が言おうとしているのは、過去の要因から視覚野に結びついた、視覚的な反応の伝達のことです。私たちはすでに素晴らしい仕事をいくつも達成しましたが、まだやるべき研究がたくさんあります。

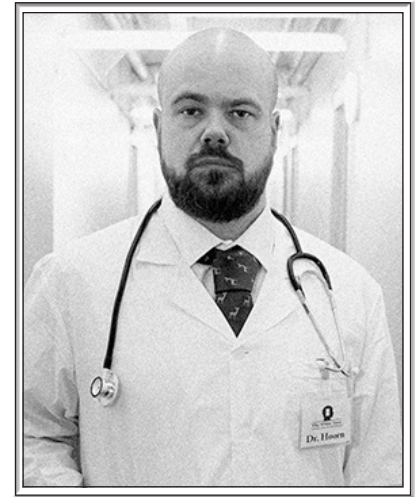
—あなたは将来、素晴らしい実績を残すことは間違いないと思います。あなたはどんな人に影響を受けていますか？

まず最初に、「The White Door」の私の上司についてお話ししたいと思います。彼に長年影響を受けました。すでにかかなりの年齢だが、それでも私たち皆の中で最も頭がキレる。常に患者の個人的なニーズに100%集中するように気づかせてくれたのも彼です。

また、チームのメンバーは素晴らしいインスピレーションを与えてくれます。私たちは緊密に協力し合い、施設のスタッフにはそれぞれ得意分野があります。彼らのおかげで、様々なことを達成できました。

—もっと個人的なレベルでのインスピレーションはありますか？

TH:個人的には、私は芸術作品が大好きです。美術館やギャラリーをよく訪れますが、特にゴッホの作品



に興味があります。自然も大好きで、動植物の知識も豊富です。よくペットのアメリカン・スタッフォードシャー・テリアを連れて、公園に長い散歩に出かけます。

—実に多才ですね。

TH:もし読者の方たちが私の個人的なことに興味があるなら、私の見解や写真をシェアしている、個人のウェブサイトにもアクセスすることもできます。私は常に最新のテクノロジーの進歩を追うように心がけています。インターネットとこの新しい媒体が提供するであろうあらゆる可能性に非常に興味があります。この分野では、「The White Door」は常に先駆的存在です。70年代にはすでに基本的な社内メールシステムが存在していたんですよ。とても興味深いです。

—ドクター・ホーン、最後の質問です。あなたは独身ですか？

TH:ははは。女性読者には申し訳ありませんが、私は愛しい妻と長い間結婚しています。私たちの間には娘がいて、名前をKirstenといいます。

—ドクター・ホーン、今日はありがとうございました。